

「第 13 回母子健康手帳国際会議」におけるご挨拶

令和 4 年 8 月 24 日

「第 13 回母子健康手帳国際会議」が開催され、オンラインで参加できましたことを大変うれしく思います。第 13 回母子健康手帳国際会議実行委員会、トロント大学、母子健康手帳国際委員会をはじめ、この会議を実現するために携わってこられた皆さまに深く敬意を表します。

母子健康手帳は、妊娠中、育児中の女性、子どもやその家族を支援するために重要な役割を果たしています。私は 2018 年にタイで開催された「第 11 回母子健康手帳国際会議」に参加しました。そのとき見せていただいたタイの母子健康手帳を懐かしく思い出します。昨年は、第 12 回母子健康手帳国際会議オランダ実行委員会が企画した一連のウェビナーに参加し、多くのことを学びました。そして、このウェビナーの情報の一部を、私が総裁を務める母子愛育会のメンバーが日本の母親や家族に紹介することの手助けができて、うれしく思っております。

本日の会議のテーマは、“Making Me Visible”（私を見えるようにする）です。弱い立場に置かれている妊娠中の女性や母親、新生児、子どもを見つけて支援することはとても重要ですが、そうした人々が必要としている事柄は未だに見えていないかもしれません。母子健康手帳は、母親とその家族が、耳を傾けて支援してくれようとしている医療従事者やボランティアと意思を疎通するために役立ちます。また母子健康手帳は、女性とその家族が自分自身の健康の記録を所持し、健康上の問題について助けを求めることを可能にします。本日の会議が、貴重な経験を共有し、新しい考え方を学び、一緒に話し合う、新たな機会を私たちにもたらすことを、楽しみにしております。

母子健康手帳を活用して、妊娠中の女性、育児中の母親と子どもたちの健康のために貢献してこられた皆さまに深く感謝いたします。そしてこの会議が、妊娠中の女性、育児中の母親、新生児、子どもやその家族を支援する上で大きく貢献し、子どもたち一人ひとりが成長して私たちの未来を築く役割を担うことができるように願っております。